

GISApシリーズの概要

I. 「GIS」とは、地図をベースとしてその上に「人」や「物」などを「図形」や「マーク」でプロットし、それらに付帯する情報（属性）を管理・分析するシステムです。

※Geographic Information System : 地理情報システム

II. 「GISApシリーズ」は、「GIS」に求められる機能を網羅しつつ、個別利用からネットワークやWeb上での複数利用までご利用いただけるSimple & Lightな地図情報システム。

地図と各種データ（分析情報・固有情報・第三者情報・背景地図）を重ね合わせて可視化し、様々な業務で有効活用することが可能。

III. 災害発生時には、ハザードマップ・事業所／社員情報・要援護者情報等の各種データから、避難ルートの策定や危険地域の想定・把握、災害情報管理や安否確認等を行うことにより、地理的状況を考慮した安全かつ円滑な避難と二次災害の被害低減をすることが可能。

GISApシリーズの概要

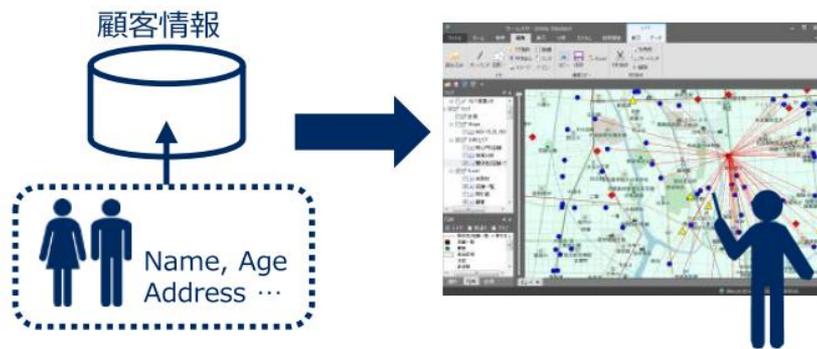
「GIS」に求められる機能を網羅しつつ、目的や使い方に応じて自由に組み合わせ可能な、使い勝手のよさを実現した地図パッケージ製品です。



GISApシリーズの概要

利用イメージ

顧客情報を取り込むことで、位置情報が視覚的に把握できるようになり、精度の高い分析や計画立案に活用できます。



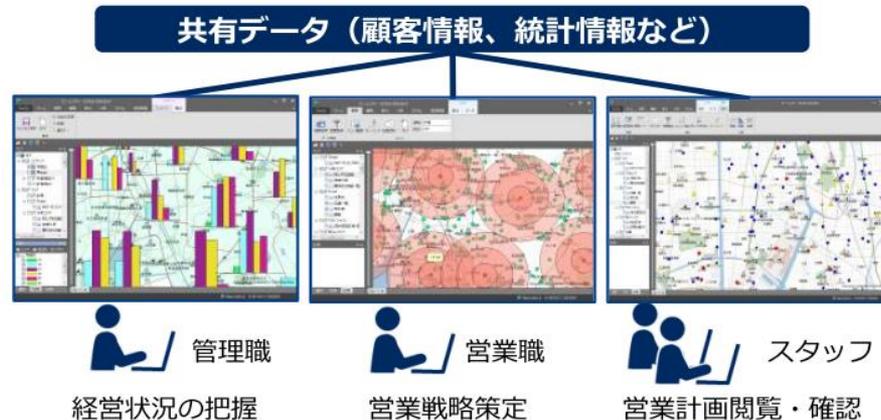
利用イメージ

顧客情報の分析結果や訪問計画などを全社で閲覧できるように公開。パソコンやタブレットなど機器を選ばず、誰でもどんな場所からでも地図情報を活用できます。



利用イメージ

部署や業務ごとのユーザ管理や権限設定を行うことで、情報資産の公開・非公開を柔軟に制御でき、社内共用型GISとして多目的に活用できます。



利用イメージ

Tabletで地図と台帳を持ち出し、対象の顧客情報を参照。メモ書きや撮影した写真データを地図情報と紐づけ、現地渉外業務に活用できます。



国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC : Intergovernmental Panel on Climate Change）が示す「気候変動がもたらす8つのリスク」の内、本ソリューションにより軽減できるリスク。

（冒頭の番号は、「気候変動がもたらす8つのリスク」次ページの番号に対応）

②大都市部への洪水による被害のリスク

洪水や豪雨による災害時に、ハザードマップ、事業所／社員情報、要援護者情報等の各種データから、避難ルートの策定や危険地域の想定／把握、災害情報管理・安否確認等を行うことにより、地理的状況を考慮した安全かつ円滑な避難と二次災害への被害を低減することが可能。

気候変動がもたらす8つのリスク

出典：IPCC第5次評価報告書(2014)



① 海面上昇、沿岸での高潮被害などによるリスク



② 大都市部への洪水による被害のリスク



③ 極端な気象現象によるインフラ等の機能停止のリスク



④ 熱波による、特に都市部の脆弱な層における死亡や疾病のリスク



⑤ 気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスク



⑥ 水資源不足と農業生産減少による農村部の生計及び所得損失のリスク



⑦ 沿岸海域における生計に重要な海洋生態系の損失リスク



⑧ 陸域及び内水生態系がもたらすサービスの損失リスク